



## 謹賀新年

ウイズコロナ生活を上手に乗り切り  
 再スタートさせましょう!

丸山町会会長 柳澤 保雄



皆様には、コロナウィルス感染症の減少が続き昨年よりは見通しの良い希望ある今年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年の年初より始まった新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全世界に拡大蔓延しました。日本に於いては、感染防止対策の徹底が医療従事者を中心にして、官民一体の協力の下で実施され効果を上げました。更にコロナウィルスワクチン接種者が昨年一年間で大幅に増加し、12月時点で、高齢者から若者までの8割近くが2回接種致しました。

昨年度は中止とした「チャレンジ100日」を今年度は行うことになり、11月21日にスタートいたしました。ゴールは、令和4年2月27日です。登録した人数は

昨年末になると全国各地で新規感染者発生「ゼロ」の日が多くなり、船橋市に於いても同様の傾向です。

しかし、TV報道などで専門家が繰り返し発言される通り、今後とも感染予防の基本であるマスク着用・手洗い消毒の励行及び3密を避ける日常生活を実行し、コロナウィルス感染症の収束を、丸山地域全員の繋がりを第一にした従来通りの共助の流れで、安全安心な生活を守ってゆきましよう。

寅年は、コロナウィルスの収束を目標として、私達丸山町会に於いても予防対策を万全にした活動で新しい計画にチャレンジする年としますので、会員の皆様への絶大なご協力をお願い致します。

本年も明るく希望の持てる年でありますよう、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

150名と、やや少なかったのですが、ゴール目指し目標に向かって頑張ってください。実質100日に満たないですが、コロナ禍の中での実施なので、ご理解ください。

### チャレンジ100日 スタート

福祉部長 松本 ナヲエ



### 丸山の防災について 「大災害への備えを」

防災防犯部長 森 隆志

丸山町会の歴史は60年を優に超えて、町会への加入は約3700世帯、人口では12,000人を数えます。そんな多くの人が暮らす現在の丸山は、時代の変化、住民の高齢化、独居空き家の増加等々、日本の社会課題を間違いなく抱えているのではと感じています。

そこで防災視点から町民の皆様へ意識変化を図る「備えて正しく怖がる」過去に予測された全国10カ所の大地震はすでに8カ

- 1 住民の災害への意識変化を図る



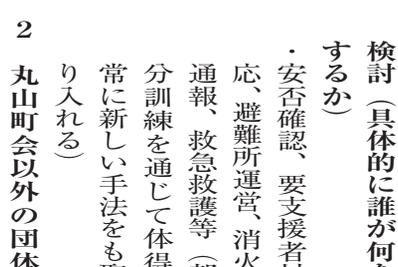
黄色が取りつけられた器具

検討(具体的に誰が何をやるか)  
 ・安否確認、要支援者対応、避難所運営、消火、通報、救急救護等(部分訓練を通じて得、常に新しい手法も取り入れる)

2 丸山町会以外の団体、民間事業所、医療機関他との連携強化「地区防災」町会だけでなく地域との絆、関係性を共有し相互に協力し合う。

3 避難所運営委員会の立ち上げ (災害時避難所の運営は町会の防災防犯部で取り組んでいることや今後の課題)

- 2 丸山町会以外の団体、民間事業所、医療機関他との連携強化「地区防災」町会だけでなく地域との絆、関係性を共有し相互に協力し合う。
- 3 避難所運営委員会の立ち上げ (災害時避難所の運営は町会の防災防犯部で取り組んでいることや今後の課題)



防災講演会 講師のお話



防災訓練 一土のう作り

### 手芸教室「さっとカブリーナ」

婦人部部長 高橋 成子

11月29日、自治会館に於いて、婦人部主催の手芸教室を行いました。今回は、手ぬぐいなどの身近な布地を使って作る「さっとカブリーナ」です。手軽に作れて何かと便利な被り物、どんなものか写真で紹介いたします。作り方をお知りになりたい方は、町会婦人部の方にお尋ねください。

飾りをつけてこんな可愛く!



万両



千両

### 季節の花 千両・万両

お正月のめでたい花です。千両の花言葉は、「利益」「裕福」別名「草珊瑚」です。万両の花言葉は、「富」「財産」です。ところで、百両(カラタチバナ)・十両(ヤブコウジ)・一両(アリドオシ)をご存じですか? また、億両というものもあります。いろいろあるんですね。「千両、万両、有り通し」という言葉があります。これは、その昔、日本人は正月を迎える時、縁起をかついだ事を表す言葉だそうです。

10月10日	10月24日	10月30日	11月6日	11月9日	11月18日	11月19日	12月8日	班長届日	丁目	氏名
1	1	1	2	5	3	2	4			
浦田 清司	関 榮子	緒方 正信	畑中 昭彦	松永 英靖	荒井 藤克	大村 ハル	野口 一郎			

表心よりご冥福とお祈り申し上げます (敬称略)

4 公的機関と連携を図り常に情報共有を行う。  
 ・船橋市危機管理課、船橋北消防署、消防団、船橋警察署他

町会などの住民が主体は避難所運営について  
 ※令和3年11月28日 丸山小学校、法典東小学校他市内81小中学校等で実施

住民の皆様のご協力を、宜しくお願いいたします。

### 愛犬家の皆様へ

最近、道路や公園で、犬の糞が放置されているのを目にし、いやな気分になることがよくあります。散歩中の飼い犬の糞尿の始末は、飼い主の最低限のマナーです。みんなが気持ちよく過ごせる清潔な街にしていきたいです。

# 感謝 船橋生まれ丸山で育った谷川航(たにがわ わたる)くん

健伸学院理事長 **しばた あきお** 柴田 焔夫

谷川航くんは、船橋生まれの丸山育ちです。幼稚園から器械体操に親しみ、卒園後も中学卒業まで健伸スポーツクラブで倉島(国際審判員)、木下(順天堂大学時代キャプテン)両コーチの指導の下に毎日、16時から21時まで練習に励みました。市立船橋高校に進学後は神田監督のもとで活躍して、順天堂大学でも活躍し、現在はセントラルスポーツに所属しています。

谷川航くんは、弟の翔(かける)くんとの二人兄弟です。二人は、本人たちのやりたいことを最優先して支えた教育熱心なご両親とおばあちゃんに育てられました。

弟の翔くんは、茶目っ気な性格で秀才肌、内村選手を破ってチャンピオンになり注目されました。お兄ちゃんの航くんは、幼稚園の頃からまじめで誠実な性格でした。誠実で着地もしっかりした堅実型です。

今回の東京オリンピックは、堅実なお兄ちゃんの航くんが選出されました。ケガを克服できなかった翔くんはパリ大会を目指します。共に気になるライバルでしょう。

オリンピックに出場するときに健伸幼稚園の子どもたちが「がんばってください」「金メダルおねがいします」と寄せ書きをしました。

谷川航くんからも「金メダルを首にかけて健伸幼稚園に遊びに行くね」と、お手紙をいただきました。

練習で忙しい日程の合間を縫って、約束の時間通り、オレンジ色のウェアにシューズ、オリンピック日本代表のユニホームを着て健伸幼稚園にやって来てくれました。

子どもたちは、大喜びで航選手の胸元に輝くメダルに「さわってもいい?」。

特別サービスでメダルを首にかけてもらって「おもーい」と大喜びでした。

元気のよい男の子が、メダルを手にした瞬間、先生たちが「ぜったいに…」といたら、子どもたちがそろって「かんで、いけません」。

航選手も先生たちも「そうですっ!」と斉唱して、大笑いしました。

「ぼくはぜったいにオリンピックにでるんだ」「たにがわせんしゅ、かっこよかった」

船橋生まれ、丸山で育った航選手・・・願いは、「3年後のパリオリンピック」弟の翔選手と二人で日の丸を掲げてくれると話してくれました。

健伸幼稚園は来年で50年目を迎えます。巣立った園児は、6000人に及びます。

卒園生同士が結婚したり、卒園生が保育者になって幼稚園に戻って来てくれています。卒園生もお父さんお母さんになって毎日、幼稚園の送り迎えをしてくださいます。結婚して子どもが生まれてから、家族で丸山に引っ越しをしてお子さんを幼稚園に入園してくれる卒園生も多くなりました。これもあれも、地域の方々の温かいご理解とご協力をいただいている賜です。

そうした中で健伸幼稚園で、360人を超える子どもたちの声が弾んでいられるのは、丸山町の方々の温かいご理解と広く法典地区の方々のご支援の賜として深く感謝しています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

**東京オリンピックメダリスト 谷川航選手**  
健伸幼稚園を訪問  
令和3年11月19日(金)、先の東京オリンピックの体操男子団体で銀メダルに輝いた谷川航(たにがわ)くんが、健伸幼稚園を訪れました。

子ども達が心待ちにしてきた谷川選手の訪問。当日の様子を、広報部では、取材させていただきました。谷川選手の幼稚園時代からのことを良く知る健伸学院理事長の柴田焔夫(しばたあきお)先生が、谷川選手とのふれあいなどについて、寄稿してくださったので、掲載いたしました。



母親教室で挨拶 やや緊張気味



質問に答えたり 思いを語る



子供達との楽しいふれあい



メダルを付けてもらい大喜び



ツバキエクストに応援 きれいに側転を



お世話になった理事長先生(左) 園長先生(右)と

## 健伸スポーツクラブについて

学校法人健伸学院は、船橋市丸山に昭和46年に健伸教育研究所として発足し、昭和49年に学校法人健伸学院健伸幼稚園として認可を受け、男性職員を幼児教育の現場に複数名配置し、幼児保育園として注目されました。翌年の昭和50年に健伸幼稚園の敷地内に体育館を設立し、健伸スポーツクラブを発足させました。昭和57年に体育館の増設を行い、増設内には「ピット」施設内にプールのような箱の中にくさりのスポンジを入れたものを設置しました。この「ピット」の新設により、子どもたちのチャレンジしてみたいという気持ちをさらに膨らませていきました。

健伸の建学の理念は、「子どもはよりこもらしく」としています。子どもたちの心と体が、健やかにのびのびと育つことを願って、健伸学院を設立しました。健伸スポーツクラブは、地域の子どもたちがスポーツを通して様々な学びの場として活用し、各競技の技術を身につけることだけでなく、互いを思いやる気持ちや、自分の将来について逞しく生きていく力を育んでいきます。

これまでの幼稚園の体育館を改築し、令和2年8月に「パノラマホール」として新遊戯室が完成しました。現在は、幼稚園の体操の時間やスポーツクラブの活動に利用していますが、「パノラマホール」は、様々なことに広がりをもって活用していきます。地域の方々にも「パノラマホール」をご利用いただけるような活動を今後、展開していく予定です。



懐かしのスポーツ施設で倉島(左)木下(右)両コーチと